

## 充実した2学期を過ごすために

伊丹市立総合教育センター

所長 永嶺 香織

新型コロナウイルス感染症の第5波が収まらないまま2学期がスタートしました。特に子どもの感染が急拡大しており、1ヶ月前と比較すると約6倍の増加です。

本来であれば、2学期は気候もよく授業日数も多いので、落ち着いて学習に取り組んだり、体育大会や文化祭等を実施したりするのに最も適した学期です。しかし、

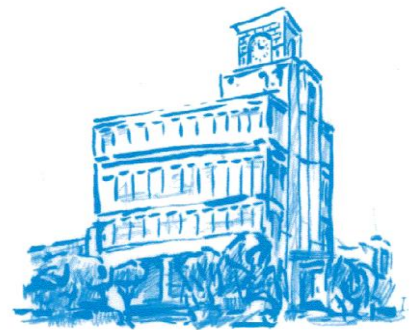
今は学校生活に様々な制限があり、従来どおりの学びを設定するのは難しい状況です。

ある民間企業が、小・中・高校生を対象に「コロナ禍に伴う学校行事の中止や縮小が子どもたちに与える影響」について調査したところ、非認知能力の育成や生活習慣に様々な影響があることが明らかになっています。

体育大会や文化祭、修学旅行等の学校行事が果たしてきた役割は極めて大きいものがあるのです。仲間や教師との信頼関係を深め、主体性や協調性、粘り強さなど、人として大切な資質を育んできました。

しかし、このような取組が実施できない中、教師はどのようなことをこころがけなければならないのか。子どもたちの命を守りながら、子どもたちの成長を最優先に考え、できる限りの「学び」を創造することです。平常時でも、夏休み明けは不安やストレスを抱える子どもが少なくありません。ましてや現在の状況では、子どもたちの不安やストレスはますます増えていると思います。

まずは、子どもや家庭の状況や変化などを丁寧に把握することです。そして、感染状況が予断を許さない状況になっても、ICT等をうまく活用しながら、子どもと教師、子ども同士がしっかり「つながる」ことです。また、「学びを止めない」ために、「オンライン」による授業配信や、このような時にこそ子どもたちがタブレット端末などを使い主体的に学ぶ習慣を育てていただきたいと思います。ぜひ、ピンチをチャンスに変えていただきたいと思います。



# 2学期

## 居心地の良い学級環境を整えるために



毎日の少しの時間を利用した  
取り組みの積み重ねが功を奏す

### 2学期に気をつけたいことの例

- コロナ感染不安等、落ち着かない状況  
感染予防のための制限などにより**ストレスが発生する**。
- 取り組みが多く時間的に忙しい状況  
時間的な余裕のなさから教師も子どもも**心の余裕がなくなる**。
- 長い休み明け、不安で始まる2学期  
できていない課題、変化する人間関係等の**不安**。

### 2学期の捉え方

長い夏休み明けの2学期は、良くも悪くもリセットがかけやすい。考えようによっては良さを伸ばし、1学期にできなかった事をやり直すことのできるチャンスである。また、期間が長いということは継続して長期的な取り組みがしやすく、定着させやすい学期でもある。今一度、子どもたちの様子を一人ひとり見て、より居心地の良い学級を作ることができる良い機会と捉える事ができる。



## ◆ 1. 安心できる学級づくり

### • 担任からのメッセージ

学期はじめに**どのような集団に成長してほしいか**を担任としてわかりやすく伝える。日々の成長、課題点、励ましなどは背面黒板などにメッセージとして書くことで学級が目指している方向を示す。

### • ちょっとした時間の学級レク

手の込んだものではなく、心をほぐすレクリエーションを楽しむ。行事が苦手な児童生徒が**安心できる教室の雰囲気をつくる**。

### • 1分間スピーチを取り入れる

朝の会や終わりの会の時間等で実施する。人間関係が固定されてくる学級内に、級友の**「良さ」を再確認する**機会にする。

## ◆ 2. 教室環境の整備

### • ロッカーや傘立てのチェック

たくさんの人が使う場所だからこそ、きちんとルールを守って整頓して利用できるようにする。美しい環境を作ることで、物の紛失や破損、事故によるケガを防ぐことになる。**常にこだわる姿勢を見せる**ことが重要。

### • 授業に集中できる環境づくり

黒板がある教室前面は「学級目標」と「学年目標」のみにするなど、**掲示物を絞ることで黒板に集中できるようにする**。必要な掲示物は極力側面や背面を活用する。

### • 黒板の消し方を工夫

次の授業が「縦書き」ならば上から下へ、「横書き」ならば「右から左へ」消すよう指導する。このように**みんなが気持ちよく黒板を使う**にはどうすればよいか工夫して取り組ませる。

## ◆ 3. 学級の状態を評価

### • 朝の会の時間を有効に活用

朝の健康観察において一人ひとりの顔を見て、変化がないかよく観察をする。

### • 日々の振り返りやアンケート

日直や委員長からその日一日の振り返りを聞き取り、学級全体の状況把握に努める。「心のお天気アンケート」など短時間でできる内容で書かせ、児童生徒に変化があった場合は教育相談で丁寧に聞き取る。子どものSOSは素早く具体的に**つかむようにする**。

### • QU等の活用

QUのプロット図から学級の満足感や安心感を把握し、質問項目から児童生徒の「つまづき」等をキャッチして、**次の取り組みに活かす**。

## ◆ 4. 生活指導・生徒指導

### ・学級内の信頼関係と安心感

児童生徒が安心できる雰囲気をつくり信頼関係を結ぶことが第一。学級のルールや約束は事前に伝えてみんなで守る。守れなければ指導する。ルールや約束に無理があるなら話し合って修正する。これを繰り返すだけでも、自然と学級内に信頼と安心感が生じる。

### ・日々の指導が浸透する雰囲気

とっさの出来事や問題行動が起きた時の指導は効果的に。そのためには毎日の声掛けと小さな積み重ねによって信頼関係を構築しておくことが重要。

### ・清掃指導

- ・自分の役割をはっきりさせる
- ・会話は必要最小限にとどめる
- ・週ごとに目標をもつ（個人とグループ）
- ・週の最後に達成度を認め合う
- ・清掃中は笑顔で



学級の児童・生徒の状況に合わせて作る

などを実行することで学校の美化だけでなく、集中することで様々なことに気づく心や、黙々と清掃することで自分を見つめ、心を落ち着かせることができる。

## ◆ 5. 成功体験を支援

### ・学級目標を再確認する

2学期の目標や、スモールステップでたてる目標が適切かどうか確認する。児童生徒が常に意識できて、実現可能で、努力を振り返ったときに達成感を味わえるものになっているかどうかをチェック。なっていないければ軌道修正の必要がある。

### ・日々の子どものがんばりをキャッチする

計画どおりに課題を進めることができた児童生徒を認める。どうしても困難な児童生徒には、個別に支援をして課題をクリアさせる。どちらの場合でも、児童生徒の努力を価値づける教師の称賛の言葉の威力は絶大！

### ・日直は2人ペアの輪番制にする

全員が取り組むことで学級への帰属意識を持たせる。またペアにすることで日常に様々な不都合（異性ペアで着替えによって教室に入れなど）が生じる。これを教師がペアでお互いに協力して乗り越えさせるように支援し、工夫した点を褒める。これにより相手と達成感の共有をし、「一緒にがんばって良かった」が広がる。

